



## 創造的破壊—金沢の商店街の未来—

株式会社 ジーアンドエス  
代表取締役社長 萩原 扶未子

2004年アテネ・オリンピックで日本は期待をはるかに上回るメダルラッシュに沸いています。特に体操は、体操日本と言われた時代はもう来ないのだろうとまで思われていた中で、28年ぶりの団体金メダル獲得で、体操日本の復活をみごとに果たしました。根本的に育成方法を見直し“創造的破壊”の基、大胆な演技の追及から基本を忠実に地道な基礎訓練を日々こなし、確実に足先まで神経の行き届いた美しい演技で得点を重ねた結果です。

商店街も衰退化を言われるようになって、かなりの年月が過ぎています。その間、行政やコンサルティング、地元の有志の方々が有形無形の支援やアイデアを提供してきました。しかしながら、これだと！という、特効薬のないまま現在に至っています。

荒療治とも取られますが、体操同様“創造的破壊”が必要なのではないのでしょうか。現状を維持しながら、変革をしていくということは、どういった業種でもなかなかうまくいっていません。日産のように外国からトップが来て、大胆な見直しを行うということが、“創造的破壊”です。

体操の団体で勝つということは、一人の力がどんなに突出していても不可能です。各々が平均以上の力を持っていて、その結集が団体の金メダルに結びつきます。商店街も同じではないのでしょうか。どうしても“群”で捉えがちな商店街の活性化を、“個”ありきを重視し、気が付けば“群”になっていたというのが理想です。自分のお店が「へえ〜」「あつた！」を求め、そういった商店の集まりが活性化した“個”から“群”への集約が、新たな商店街を創出していきます。

“創造的破壊”にはテーマが必要です。金沢の商店街はこれまで身近な生活に密着した商店街のイメージでした。生活様式が変わり、郊外ショッピングセンターとの“競合”ではなく“共存”を考えると、これからは“ヤング”、“キャリア”、“シニア”、“ベビー”などのターゲット・テーマが必要ではないのでしょうか。あるいは、横浜ラーメン博物館、自由が丘スイーツフォレストのような商品別テーマパークが商店街のひとつの将来像とも言えます。テーマパークのよさは、行く目的がはっきりしているという事と、関連店が多ければ競争原理で、より切磋琢磨し互いに伸ばしていけるということです。

金沢のように歴史をはぐくみ環境に恵まれた土地柄では“創造的破壊”から生み出される金沢らしいユニークなテーマパーク商店街が形成できるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、金沢市商店街連盟創立70周年おめでとうございます。金沢は加賀百万石の伝統文化と密接した生活を営んでいます。商店街の存在は、私たちの生活の中で必要不可欠の場所です。金沢の一人の消費者として、商店の皆様と連盟のさらなるご発展を祈念いたしまして、寄稿分を終わります。